

## あとがき

山川 清太郎

第 21 回関西フランス語教育研究会（ランコントル）は、3 月 30・31 日の両日にわたって大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズで開催され、146 名もの参加者を迎えて無事に終了することができました。ランコントル開催を支えてくださった皆様にお礼申し上げます。

今年のランコントルでは「日本の教育環境でヨーロッパ共通枠 A1・A2 レベルの能力を身につけるにはどうすべきか?」、「新たな教育ツールを外国語教育に組み込むために —方法と実践結果の検証—」を主要テーマとした計 30 のアトリエが開かれ、活発な研究発表や質疑応答がなされました。また Table ronde では、「複言語主義を推進するための国際交流—フランスと日本で学ぶ」、「英語以外の外国語教育の現在」について取り上げました。教育機関・言語の壁を越えたパネリストによる議論は興味深かったのではないのでしょうか。また今年度も 30 日午後には出版社プレゼンテーションの枠を設けました。新たな教材を目にする絶好の機会になったと思います。

第 21 号となる本論集には、アトリエでの発表内容を中心とした計 13 本の論考が寄せられました。多忙な時期にもかかわらず論考をお寄せくださった執筆者の皆様には感謝いたします。

来年度はランコントルが誕生してから 22 年、この研究会が産声を上げた年に同じく生を受けた学生達が社会へと旅立ってゆきます。残念ながら 22 年前とは異なり、フランス語、第 2 外国語、人文科学系の学問に対する風当たりは厳しくなっていました。しかしながらランコントルは年を重ねるごとに規模が拡大し、大学院生を含めた若手教員の参加者が目立ってきています。このことは将来のフランス語教育にとって明るい希望となるのではないのでしょうか。改めて皆様のご理解・ご協力、フランス語に対する情熱にお礼申し上げます。

ランコントルは昨年 4 月より運営委員に私を含め 4 人のメンバーが新たに参加しました。またホームページを一新するなど、新たな活動に「チャレンジ」しております。ご意見・ご感想がありましたら私たち運営委員にお教えいただけたら幸いです。